

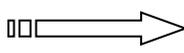
営 農 情 報

令和7年5月吉日

【あきたこまち・コシヒカリ編】

J Aあいち海部 南部営農センター

上質な米作りのポイント

たくましい稲作りを目指しましょう  中干し

(生育状況)

気温は、4月中旬まで平年に比べ高く推移しました。4月下旬から5月上旬にかけては平年を下回る日が多く、また風が強い日が多くみられたことから、この時期に移植した圃場の一部では植え痛みが発生しています。6月以降の気温は平年並か高いことが予想されることから、生育は平年よりやや早くなることが見込まれます。下記の条件を確認して、たくましい稲作りを目指しましょう。

*みどりの食料システム戦略

みどりの食料システム戦略とは、農林水産業に伴う温室効果ガスの放出や化石燃料由来の肥料の使用量を減らすといった環境負荷の低減策が中心となっています。

通常行われる中干期間を7日間拡大することにより収量への影響を抑えながらメタンガス排出量を3割削減できることが確認されています。

有効茎数(20本~25本)が確保できたら、中干し管理をしていただき(2週間程度)、中干し終了後には入水管理をお願いいたします。

*中干しの効果

- ① 茎が太くなり、丈夫な茎が揃います。
- ② 葉が立ち、姿勢が良くなります。
- ③ 無効分けつを無くし、有効茎の確保を目指します。

*中干しの目安

1株 あきたこまち22本、 コシヒカリ20本

*中干しの期間(目安)

あきたこまち(田植日 4/15頃) 5月30日頃から14日間程度

コシヒカリ (田植日 4/20頃) 6月 5日頃から14日間程度

※分けつが少ない圃場は3~4日遅らせて実施してください

※圃場により生育差がありますので、上記の本数を目安に中干しに入りましょう。

※田んぼ全体に小ひびがはいる程度まで行いましょう。

※土壌が乾きすぎる場合は、中干しを中断し入水してください。

中干しの開始時期・期間・程度は、稲の状態と気候に応じて加減しましょう。

***病虫害の発生を予防しましょう**

補植苗の放置は、病虫害の発生原因になるので取り除きましょう。

畦畔除草（カメムシ等寄生地）は確実に行いましょう。

本田防除は、カメムシ対策として出穂期7日前～出穂期にスタークル粒剤を3kg/10a散布しましょう。穂が出揃ってからの散布では遅いので注意してください。

また、散布後もカメムシの発生が続く場合は、2回目のスタークル粒剤の散布を検討してください。

稲作生産工程管理を忘れずに記録して下さい。

麦・大豆 栽培について

5月下旬から麦刈作業、6月下旬から大豆の播種作業が始まります。作業の始まるまでに、今一度、畦畔の雑草処理をお願いします。